

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会 委員名簿（敬称略）

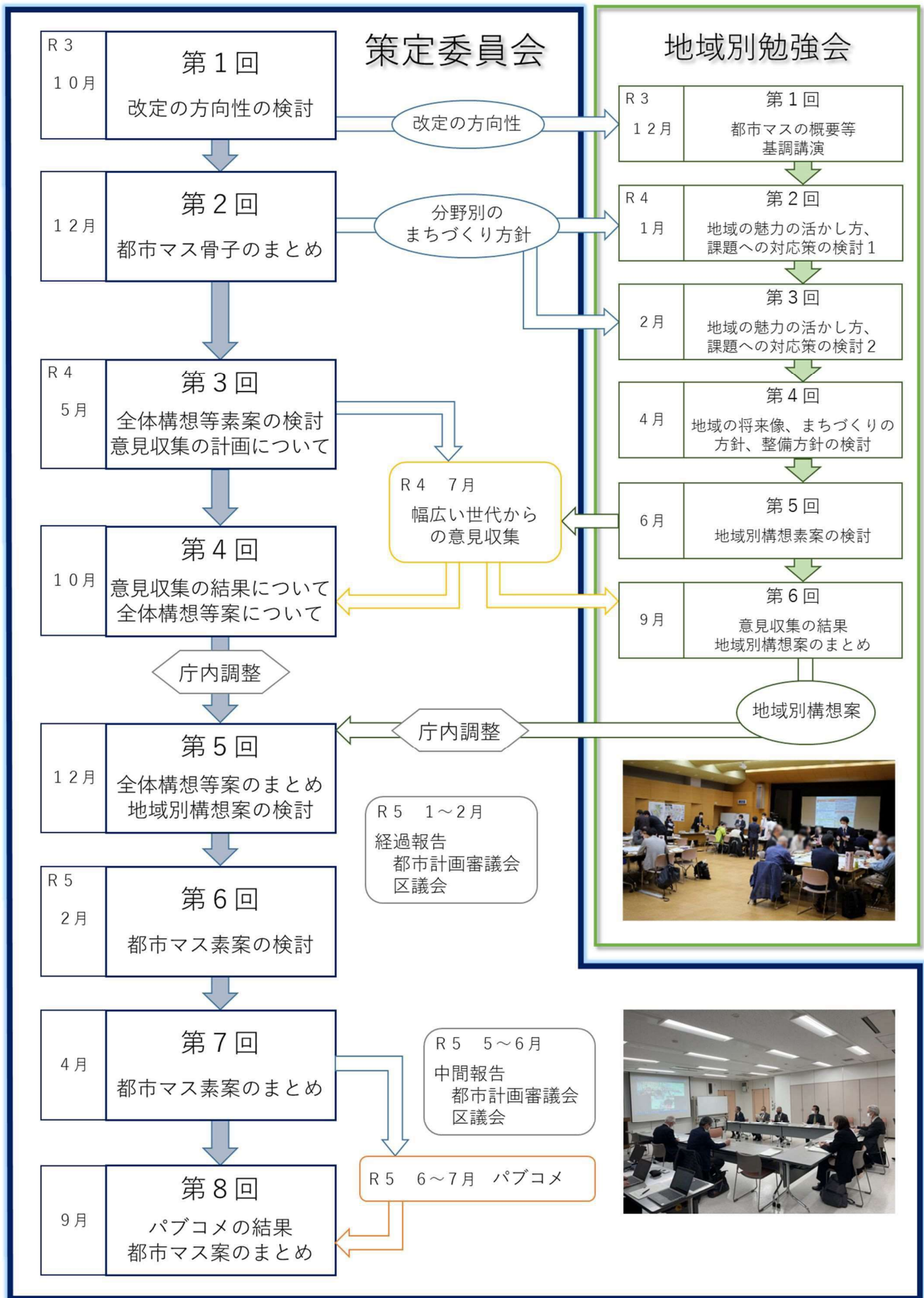
委員長	佐野 克彦	元東京都建設局長
副委員長	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授
委員	郷田 桃代	東京理科大学工学部建築学科 教授
委員	轟 朝幸	日本大学理工学部交通システム工学科 教授
委員	阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 准教授
委員	泉山 壘威	日本大学理工学部建築学科 助教
委員	谷澤 多美雄	葛飾区 自治町会連合会
委員	矢部 文雄	東京商工会議所 葛飾支部 副会長
委員	中村 靖雄	東京都建築士事務所協会葛飾支部 支部長
委員	青木 堅治	東京都宅地建物取引業協会葛飾区支部 支部長
委員	吉田 眞	葛飾区都市整備部長
委員	杉本 一富	葛飾区交通・都市施設担当部長
委員	泉山 省吾	葛飾区街づくり担当部長

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会スケジュール

令和3年10月25日	第1回 委員長の選出等 改定の方向性について
令和3年12月23日	第2回 都市マス骨子のまとめ
令和4年 5月27日	第3回 全体構想等素案について 住民意見の反映について (意見収集の予定・地域別勉強会の経過報告)
令和4年10月25日	第4回 住民意見の反映について (意見収集の結果・地域別勉強会の経過報告) 全体構想等案について
令和4年12月22日	第5回 全体構想等案のまとめ 地域別構想案について
令和5年 2月中旬	第6回 都市マス素案について
令和5年 4月頃	第7回 都市マス素案のまとめ (その後、パブリックコメント)
令和5年 8月頃	第8回 パブリックコメントの結果報告 都市マス案のまとめ

(参考)

	予定	策定委員会	地域別勉強会
令和3年	10月	第1回	—
	11月	—	—
	12月	第2回	第1回(12/12)
令和4年	1月	—	第2回(1/15)
	2月	—	第3回(2/20)
	4月	—	第4回(4/24)
	5月	第3回	—
	6月	—	第5回(6/11)
	7月	区民意見収集	
	9月	—	第6回(9/3)
	10月	第4回	—
	12月	第5回	—
令和5年	1月	経過報告(区議会)	
	2月	第6回	—
		経過報告(葛飾区都市計画審議会)	
	4月頃	第7回	—
	5～6月頃	中間報告(葛飾区都市計画審議会・区議会)	
	6～7月頃	パブリックコメント	
	9月頃	第8回	—
12月頃	都市マス改定		



第 4 回策定委員会における主な意見

項目	意見
葛飾区のまちづくりを取り巻く状況	<p>都市計画としての関わり方は考えどころだが、最近では、脱炭素が重要なキーワードになっているので、触れていく必要がある。</p> <p>例えば、太陽光発電は、日陰になると出力が落ちるので、発電効率と街の景観・プロポーシオンとは密接に関わりがある。今は、まだ議論されていないが、都市の計画ともリンクするので、今後は考えていく必要がある。</p> <p>脱炭素については、グリーンインフラのところとか、Z E Bのところとか、色々なところに記述されているが、もっと上段に言葉をしっかり入れてはどうか。例えば、人口減少や技術革新に触れている p.11 辺りに、脱炭素社会やカーボンニュートラル 2050 といった言葉を入れておくのかなと感じる。</p> <p style="text-align: right;">資料 4 p.11、45、64、82</p> <p>p.15 からのまちづくりの主要課題について、現状と課題まで示されているが、そこからどうするのかという目標のページが離れているので、リンクされているといいと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料 4 p.15～26</p>
都市計画マスタープランの基本方針	<p>低層の住宅地の密度が低すぎると思う。ここまで低密度にできる方法をイメージできればいいが、現状を踏まえて修正した方がいいと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料 4 p.29、33～34</p> <p>パースだけでなく、キャプションを加えると意図が分かりやすくなるのと、また、理想像のキャプションと施策との対応関係が分かるように章番号などを入れていくとより分かりやすいと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料 4 p.29～34</p>

	<p>資料5 p.46 の立体都市公園制度を、まちづくりの目標スケッチや理想像で表現できないだろうか。駅前のデッキ部分などは、立体都市公園制度が馴染む場所になると思う。</p> <p>また、中学生アンケートで意見が多かったスポーツ施設についても、東京 2020 で脚光を浴びたスケートボードなどができる空間を、理想像の中で、少しでもいいので描写できるというのではないか。そして、策定後に小さくても、実験的でも、どこかで実現できるというのではないかとも思う。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.31、33～34</p>
	<p>まちづくりの目標と理想像の手描き風の絵は、なかなか独特というか、少し総花的という印象がある。</p> <p>水と緑だからと言って、全体を緑にすれば、ということでもないし、p.31、32の絵は全部にぎやかで、人が多すぎると感じる。協働をテーマにした絵は人が多くてもいいが、ハードウェアに関わる空間の部分については、本当にこれが葛飾の未来なのか、今の下町のイメージとは違う部分もある気がする。</p> <p>少し情報を減らすことを考えてもいいかもしれない。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.31～34</p>
	<p>街並みの感じとして、新しいイメージだけでなく、柴又などの伝統的な街並みや立石のような下町商店街のようなところを残すこともあるだろうと思うので、絵の中で表現できればいい。</p> <p>また、環境配慮型の施設として、ソーラパネルなのか、風車、水車といったものがあってもいいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.33～34</p>
<p>将来の都市像</p>	<p>p.37、広域拠点、拠点、生活拠点とあるのが、ヒエラルキーなのか街の特徴なのか分かりにくい。また、広域拠点が、区内における広域拠点なのか、区外からも人を集められる広域拠点なのか、明確にした方がいい気がする。</p> <p>また、p.38、真ん中の丸の付近にあるフィーダーについての説明がないと、読み取りが難しいと感じる。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.37～38、39、60、74</p>

<p>防災まちづくり</p>	<p>木造密集地での耐震促進以外に、水害に対応できる垂直避難も可能なビルスケールの建物においても耐震化を促進していくことが、葛飾区には必要だと思う。</p> <p>また、物的被害を防ぐことに加えて、災害を乗り越えていくことを政策目標にしていく必要がある。つまり、沿道の建物を耐震化し、震災が起きても、交通機能を確保し、被災者は支援していく、というメッセージを出していくことが非常に重要だと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.53、100</p> <hr/> <p>建物が建て替わり、市街地が更新されないと、浸水対応型市街地は形成されない。つまり、危ないところだから住む場所ではない、というレッテルが貼られると、建物の更新が進まず、朽ち果ててしまうので、その市街地に魅力をつくることとセットで浸水対応を図っていくことが必要である。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.49</p> <hr/> <p>拠点高台整備促進エリアを削除するのはもったいない。公共施設の管理者が、対応できないと言っているのであれば、むしろ、このまま残しておくことでいいのではないか。今後の進め方を考えないといけない。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.56</p>
<p>市街地整備</p>	<p>p.62、エリアマネジメントの記述で、都市再生推進法人自体は法人格ではなかったりするので、表現で誤解を招かないようにしたいということと、法人化を目的とするわけではなく、その後の活動が目的なので、法人化も視野に入れながら、エリマネの活動を推進するなど、最後のところを活動にした方がいい。</p> <p>また、掲載事例がやや古いところが多いので、最新の事例も少し入れるのがいいだろう。名古屋の錦二丁目などでは、グリーンインフラとベンチを入れるような活動をしたり、社会実験も多い。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.13、64～65</p> <hr/> <p>水辺利用は、葛飾区の魅力を高めるために不可欠であり、中でも水面の利用はインパクトがあるし、葛飾でしかできないので、無理にでも記述していくのがいいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.65、69</p>

	<p>水辺空間における賑わい創出の写真が、もう少し親水性の高い写真にできればいい。 資料4 p.67</p> <p>p.65、e.居心地良く歩きたくなるまち、という表現なので、サイクリングもいいが、土地利用の多様性や1階低層階のアイレベルを刷新していくこともテーマかと思うので、土地利用や1階低層階に、交流機能とかイノベーションみたいな機能を誘導するということを表現できればいい。</p> <p>また、駐輪場だけでなく、駐車場の適正配置も必要だと思う。併せて、にぎわいだけでなく、人中心のストリートやほこみちといったものを創っていくことをもう少し入れてもいいのではないか。</p> <p>資料4 p.68</p>
<p>交通体系整備</p>	<p>葛飾区は自家用自転車が普及しているので、シェアサイクルの位置づけを整理した方がいい。</p> <p>また、自動車が電気系に替わって、自動運転も進む中で、未来においては、自転車にとって、走りやすく、事故なく、暮らしの中で共存できるようなハード整備もあり得る気がする。</p> <p>資料4 p.75、77</p>
<p>緑と水辺の整備、景観形成</p>	<p>都市環境の保全を図る区域について、風致地区のことかと思うが、この表示区域以外では、都市環境の保全を図らない、とも見えるかもしれない。風致地区のことであれば、風致地区と表示してはどうか。</p> <p>資料4 p.89</p>

<p>実現化方策</p>	<p>説明動画は、全体を説明するよりも、都市マスに興味を持ってもらえるような仕掛けができないだろうか。「あれ、葛飾ってこんな面白いこと考えているの？」と引っ掛かるようなポイントを、短い動画で表現できればいいと思う。</p> <p>都市マス全体の印象はいいが、アンケートの時だけでなく、策定後も継続的にアピールしてほしい。特に、若年層へのアピールが必要だと思う。</p> <p>策定後には、オープンハウスの展示パネルのような、絵がたくさん入ったダイジェスト版を作って、区民に伝わるようにしてもらいたい。</p> <p>区民が知らないうちに決まっている、とならないようPRしていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.105</p>
	<p>従来の広報活動という表現が少しネガティブに感じるので、対面のシンポジウムなど、どういう方法があるかを幾つか見出しで記述すると分かりやすいかと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.105～106</p>
<p>その他</p>	<p>将来都市像と分野別方針の関係性を整理する表の各項目番号について、説明を入れてもらいたい。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.43～44</p> <p>同じような情報がバラバラくる印象が結構あるので、関連ページを検索できるよう、索引のような形にまとめるとより分かりやすいと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料4 p.121</p> <p>区民の皆さんに、手に取ってもらい、理解してもらうためには、図や写真が重要になってくる。</p> <p>今のところは、引用転載と区作成のもの、ポンチ絵・俯瞰図・パース・キャラクター的な絵の混在、表現も輪郭線がはっきりしているものとそうでないもの、大きさが整っていない、文字を吹き出しに入れているものとただ横に記入しているだけのもの、などなど雑多な印象がある。</p>